

2020年 8月発行：みらいの樹(番外編)



Annual Report 2019

2019年度 年次報告書

発行元:

特定非営利活動法人

地球の友と歩む会/LIFE



事務局長挨拶

この度は本書をお手に取って頂きましてありがとうございます。皆様のご支援に支えられて2019年度も活動を行うことが出来ました。支援の成果や現地の様子が本書で少しでも伝われば本望です。

猛威を振るう新型コロナウイルス感染症ですが、当会の支援地域においても影響を受けています。私を含めたインド駐在員2名は帰国しておりますが、日本人ビザの失効などの影響で再入国の目途が立っていません。また現地では感染者が増えており、医療体制の不十分な農村地域における感染症の蔓延が心配されます。インドネシアにおいても同様で、スンバ島でも感染者が出始めています。島では感染者がでた家に石が投げられる等の差別的な暴動も発生しているようで、動揺が広がっています。

困難な状況ではありますが、皆様とともに、この困難を乗り越えられるよう事務局一同、現地をサポートしたいと考えております。



事務局長：米山 敏裕

役員

(2020年7月現在)

理事長	向當 稔	ホームアイアイと警備機器
理事	米山 敏裕	特定非営利活動法人地球の友と歩む会
理事	藤崎 義宣	日本キリスト教団 久が原教会
理事	岩田 雅子	アール・コンサルティング株式会社
理事	上村 真	富士電機株式会社
理事	鷲見 香子	自然電力株式会社
理事	横山 計三	工学院大学
理事	下山 久光	アイ・シー・ネット株式会社
監事	浜走 弘之	社会福祉法人恵和

支援方針

1 水・緑・人で国際協力

人が生きていく上で重要な水と緑。そして自然と共生する村を運営する人の存在が重要です。そのため水・緑・人を支援分野とし、自然と共生する支援を目標としています。

2 現地の問題は、現地に住む人々が解決する。

日本からの一方的な援助では問題は真の解決を迎えないと私たちは考えています。必ず、問題を解決したい現地NGOまたは行政と必ず協働で支援を実施します。

3 地球の友として、いま私ができることを。

「井戸が足りない！森を復活したい！でも人もお金も足りない！」そんな声を受けて、私たちに出来る国際協力をしたい、という有志が集まりLIFEは設立されました。

目次

02

事務局長挨拶
役員紹介
支援方針

03

沿革
協働実績
組織図
事務局メンバー

04

2019年度
インド事業報告

07

2019年度
インドネシア
事業報告

11

インド
インドネシア
[COVID-19]
新型コロナウイルス
感染症の
状況

12

団体・個人からの
ご協力
ご支援・ご参加の
方法

14

会計報告

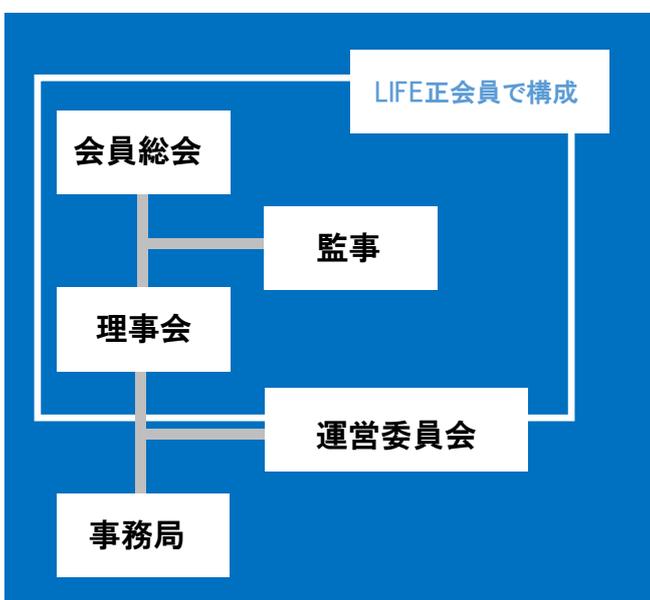
沿革

1986年4月	アジア協会アジア友の会東京事務所として設立
1990年4月	インドにて井戸建設の支援および現地との交流を開始
1992年3月	スンバ島にて植林活動および現地との交流を開始
1999年9月	「地球の友と歩む会」として独立、NPO法人格の取得
2016年4月	設立から30周年を迎える ✓ インドで農業支援をした村人が3,000人を突破 ✓ スンバ島での植林本数が延べ約40万本を突破 ✓ 協働した現地NGO／行政の数が延べ60団体を突破

協働実績（近年）

2015年4月	外務省日本NGO連携無償資金協力でインド有機農業支援を開始
2016年7月	緑の募金の協力でスンバ島でマングローブの植林を開始
2017年4月	労働連合「愛のカンパ」の協力で東スンバ島の小学生支援の開始
2018年4月	ゆうちょ財団の協力でスンバ島で有機野菜作り研修を開始
2020年4月	味の素ファンデーションの協力でスンバ島栄養改善支援を開始

組織図



事務局メンバー

(2020年7月現在)

事務局長 / インド担当
米山 敏裕



インドネシア担当
古賀 麻美



経理 / 国内担当
佐藤 静香





LIFEに関するSDGs



有機農業の研修

伝統農業を取り戻し、安心して農業に取り組むために。



水を確保することができず、農業を続けることが難しい人々があります。借金をして農薬や肥料を購入しても返済することが出来ず、自殺する農家のニュースは珍しくありません。無理して購入した農薬を過剰に使用し、土地を痛めてしまい、収穫物が減るといった悪循環に陥っているケースもあります。

かつて行われていた身の回りの自然物を利用した有機農業を復活させることで無理な借金をせずとも農業で生活ができるよう支援しています。また、野菜や果物の種子を自分たちの組合で共同管理し、購入費用を抑える取り組みも行っています。外務省日本NGO連携無償資金協力の助成を受けて支援しています。

現地の声

研修を受けたマンマラスパティ村の住人

トマト農家です。ミズを使った堆肥のおかげで昨年より収穫物が20%も増えました！化学肥料の購入も抑えられて、農業だけで生活できそうで嬉しい！

2019年度：活動結果

- ① 2カ村の農家150人に農業研修
- ② 有機農産物の認証を取得
- ③ 化学肥料の購入額が7割削減

農村女性の就労支援

村を出なくても、安心して女性が働ける場所を！



現地の声

研修を受けたマンマラスパティ村の女性より

村では収入を得られる仕事がなく困っていたので、地元にある資源を加工して売って収入に結び付けられるようになり嬉しいです。

雨がまったく降らない乾期では、井戸などの水を確保できない農家は収入を求めて男性が都市部へ出稼ぎ労働へ出かけることは珍しい光景ではありません。

ところが女性が村を出て出稼ぎに行くことを禁じている古い因習のせいで、村に仕事がない場合は家で夫の帰りを待つほかにありません。因習を無視して出稼ぎに行こうとすると、実の親であっても子供を預かってくれなかったり、絶縁されるケースもあります。

今年は農家の女性をターゲットに生産した農産物の販売、加工によって現金収入を得られるよう研修を実施しました。この支援は**生協総合研究所**の助成を受けて実施しました。

2019年度：活動結果

- ① 2カ村の女性30人に研修を実施
- ② 農産物の販売や加工品の生産を開始

教育ローン運営支援

村の子供たちに、高等教育への進学機会を！



現地の声

教育ローン運営メンバーの女性より

教育ローンの活用で女性メンバー同士の交流や教育への関心が高まりました。少額ですがローンの返済利子で教材費を購入することができて嬉しいです。

インドでは農村でも都市部でも教育への関心が高いです。タミルナドゥ州では中学校への進学率は9割となっていますが、高校、大学となると学費を確保できずに諦めている家庭も多いです。我が子を進学させたいがために悪徳高利貸しから無理して借金をして返済ができずに自殺するという事件は珍しくありません。

そこで村の中で教育ローンを運営する自助努力グループ(SHG)を作り、子供の高等教育への進学を希望する家庭に、低利子付き奨学金を貸す仕組みを2012年から実施しています。この支援は**二幸建設(株)**のご寄付を元に実施しています。

2019年度：活動結果

- ① 46名が教育ローンを利用して進学
- ② ローン利用者の返済率が今年も100%達成

① 流水域の整備&有機農業の基盤

貯水池や堆肥の生産、苗の育成、有機殺虫剤の作り方研修などを実施し農家が有機農業を始めやすい環境を整える。



② 農産物の加工と販売

高値で売れるよう加工したり農家自身で収入を得られるよう市場に出店(2019年12月~)やショップを開店(2020年3月~)



③ 次世代への継承

- ▲ 有機農業モデル研修施設、来期に使う作物の種子を保存する施設を建設。
- ◀ 州政府公認の有機農産物認証の取得。



トイレ建設と保健衛生の啓発依頼



▲ トイレの内装や外壁にトイレの重要性を示す絵をペイント。また児童が入りやすいよう壁にイルカや、見えにくいですが海底に暮らす魚たちが描かれています。



▲ トイレの外装もカラフルにペイント。インターンの望月さんが指揮。望月さん友人と小学校の児童と一緒に作業しました。

鴻池運輸(株)、(株)LIXIL

の協力(トイレの普及依頼)によって支援地マンマラスパティ村の小学校に便器と手洗い場を完備したトイレを建設しました。

設置前はトイレが老朽化のために使用できず、屋外で排泄するため衛生環境が悪い状況でした。

インド政府はトイレを使う慣習の普及を目指していますが、農村ではトイレを一度も使用したことがない家庭が多いのが実情です。



LIFEに関連するSDGs



1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



有機農業の研修支援

オーガニック野菜作りで貧困をなくす。



現地の声

研修を受けたワトゥンバカ村の男性より

今まで知識がなく自己流で野菜栽培に挑戦して失敗を続けていたので、今回の研修で専門的な知識を得られてとても助かりました。売る以外にも自分たちで食べる分も確保できて良かったです。

スンバ島東部の農村ではトウモロコシが主食で3か月ほどしかない雨期の間には収穫したもので1年を過ごします。市場に売るほどの量はなく、また高く取引もされません。家畜は家宝と同じくらい大事な存在で、大金が必要な時以外は売りません。自給自足に近い生活のため、現金が必要となった際に家畜以外に売るものがなく困窮しています。貧困世帯の農作物から得られる年収は5千円程度とインドネシア全体からみても低い水準です。

お金がなくても村のなかで手に入る自然物を利用した肥料作りを教えることでお金を使わずに作物を収穫することが来ます。この支援は**皆様からのご寄付**で実施しました。

2019年度：活動結果

- ① 1ヵ村の農家13人に農業研修
- ② 8種類ほどの野菜を収穫して販売
- ③ 農業グループ全体で6ヶ月の売上4万円

マングローブの植林支援

荒野のスンバ島に森の復活を！



緑の募金



かつてスンバ島は香木の白檀が自生していたため、サンダルウッドアイランド(白檀島)と呼ばれていたことを島の人は誇りに思っています。ですが現在は島の90%以上が荒野となり、森は消えつつあります。そのため周期的に蝗害が発生したり、野鳥の減少なども起きています。海岸に自生するマングローブも生活のための伐採などで減少が進み、マングローブ林が減少してしまっている植林地のカル村。住人や教会の日曜学校などの協力で植林を数回実施し、毎日のお世話と盗難防止の見回りなどで苗木が定着して野鳥が戻ってくるようになりました。この支援は**国土緑化推進機構・緑の募金**の協力で実施しました。

現地の声

植林とお世話をしている現地NGOより

3月の雨期に2,000本の植林を実施予定でしたが新型コロナウイルスの影響で政府からイベントなどで集団を作ること禁止されたので、NGOメンバーだけで少しずつ植林しています。

2019年度:活動結果

- ① 1,500本の苗木を延べ20人が植林
- ② 残り2,000本は現地NGが少しずつ植林中
- ③ 毎日の世話で木々は今年も順調に成長

小学生の通学バッグ支援

手づかみで荷物を持ち通学する子供たちをなくす。



片道2時間の荒道を徒歩で通学する光景はスンバ島ではよくあります。朝ごはんを食べずに水汲みの手伝いをしてから通学する子供も多く、疲労や空腹で授業に集中できない子供や通学を辞めてしまう子供たちもいます。

貧困家庭では、文具や通学バッグを買いそろえることも困難で、手づかみで荷物を持ち通学する子供もいます。東スンバ県教育局からの要請で、東スンバ県の農村部の約120の小学校に通学バッグを全児童分を配付するプロジェクトを実施中です。バッグはジャワ島の貧困世帯の主婦たちが制作しています。この支援は**労働連合・愛のキャンパ**の協力で実施しました。

現地の声

通学バッグの製作者の女性より

洪水やコロナの影響で計画が遅延して困っています。また製作所に高速道路が建設されるため立ち退きをします。政府から補償が出るけど困難の連続です。

2019年度:活動結果

- ① 2,000個のバッグを縫製完了
- ② 昨年度に縫製したバッグ2,000個を小学校へ配布完了

図書館の図書充実支援

将来の可能性を広げるために本に触れる機会を増やす



現地の声

図書室をつくった現地NGOより

スンバ島では未就学児のほとんど全員が字を読めません。でも日本からの絵本に触れることによって単語のつづりを覚える子もいます。絵本を読んだ子は入学後教科書に対する抵抗がなく助かっています。

スンバ島には本屋がなく、学校に図書室もほぼなく蔵書はあってもわずかしかなかったりありません。小学校1、2年生でも字を読める子はなかなかいません。スンバ島の子供たちの将来の可能性を広げるために現地協力NGOが事務所内に子供向けの図書室を併設しました。LIFEでは2016年から現地の本を贈呈しています。

また日本の絵本にインドネシア語に翻訳した文章を貼り付けて寄贈する取り組みを2018年度から行っています。絵本はご許可を得て永岡書店様の出版版を使用しています。この支援はきしゃぽん募金からのご寄付をもとに実施しています。

2019年度：活動結果

- ① 新規翻訳本が16種類追加
- ② 翻訳した日本の絵本66冊を発送
- ③ 日本文化を紹介したインドネシア出版版を4冊寄贈

栄養の改善支援

モリンガでスンバ島の子供たちに栄養改善を



現地の声

料理教室の参加者たちより

モリンガの葉がおいしく食べられるなんて驚き！料理教室の開催ありがとう！食べ続けると葉がなくなってしまうので、モリンガを植林して増やしたいね。

東スンバ島の農村地域では、貧しさから食事は夕食1回だけ、空腹と疲れで学校へ行くことが出来ない子供たちがいます。また慢性的な栄養不足から病气持ちの赤ちゃんが生まれてくることも珍しくありません。

スンバ島にはモリンガという栄養満点な木が自生しています。しかし食べる習慣がないために現地では雑木の扱いを受けています。

モリンガを使用した料理レシピを村人たちに紹介し、栄養の改善を図るとともに、お菓子に使用して街での販売計画、モリンガ植林計画を作成をしました。この支援は寄付サイトReadyfor、ひまわり募金、クリスマス年末募金などをもとに実施しました。

2019年度：活動結果

- ① モリンガを使用した献立7つ完成
- ② モリンガを使用した料理教室に約50人参加

有機農業の研修



研修を受けたワトゥンバカ村の住人たち。川底に溜まった砂を販売して生計を立てていました。野菜作りに今まで何度挑戦するも失敗が続き、研修で専門知識を得られることを熱望していました。



研修は家畜の糞や周辺に生えた植物を利用した肥料や防虫剤作り、野菜苗の育成、畑への作付け、作物の交配方法や野菜のお世話方法など。乾期が長いので水道管の敷設なども行います。



白菜、キャベツ、ほうれん草、インゲン、唐辛子、チンゲン菜、キュウリ、玉ねぎなどを収穫できました。研修終了後も順調に野菜作りを進めています。

マングローブの植林



(植林した年と木の平均高さ)



パダディタ海岸に植林した苗は順調に育っています。植林してから野鳥が飛来し、満潮になると小魚やカニが現れるようになりました。海岸にはマングローブの枯れ木が多くみられます。薪用など生活のために伐採されたと考えられています。

植林地を盗難されないよう現地NGOと住民が協力して定期的に巡回しています。

栄養の改善支援



▲ このような山道を片道2時間かけて通学する子どももいます。



▲ 貧困世帯に配布する予定のサプリメント。モリンガの葉を乾燥して粉末にしたものを詰めています。モリンガはタンパク、ビタミン、カルシウム、鉄分などが豊富で、世界的にスーパーフードとして注目されています。



▲ 開発した献立はケーキ、プリン、揚げせん、お茶など。粉末にした葉やケーキなどは町の人に販売予定です。





インド [COVID-19] 新型コロナウイルス感染症の状況

2020/7/22時点



▲ ロックダウン中も州政府の指導で営業できたオーガニック野菜ショップ。

現地の状況

事業地のディンディグル県では町を中心に感染者が出ています。2019年12月から出店していた市場は人混みを避けるため封鎖が続いています。2020年3月に開店したショップは営業することができ、ありがたいことに売上は上々のようで、農家の貴重な収入元となっています。また過去に支援した縫製工場でマスク製造などを計画中です。

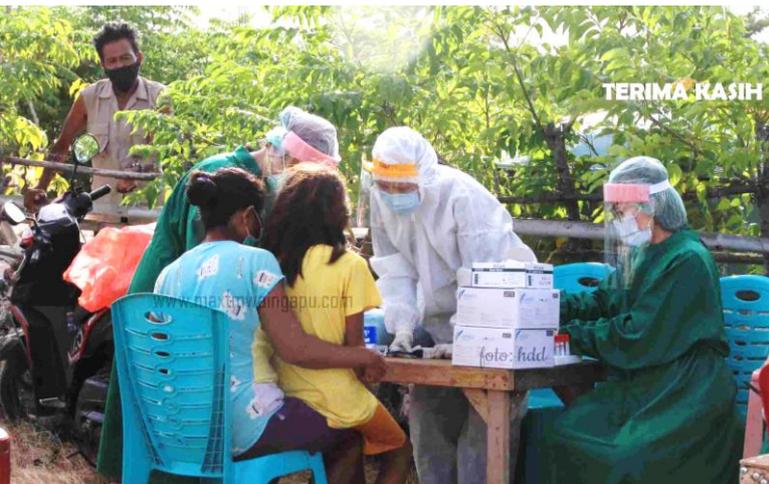
駐在員とインド全体の状況

- 2020/3/3 インドに入国する日本人ビザを無効化
インドネシア視察のため日本に一時帰国中の駐在員:米山事務局長が再入国不可に。
- 2020/3/25 大規模な都市封鎖(ロックダウン)を実施
研修視察旅行で駐在地から2千km以上離れたデリーに滞在していた駐在インターンが帰宅できなくなりました。
- 2020/4/7 日本航空による臨時便でインターン出国
駐在地に戻る目途が立たないため帰国。
帰国してからの健康状態は良好です。
- 現在 ロックダウンの延長中(2020/7/31まで)
7/1時点で感染者累計が世界第4位です。
今後も継続的なロックダウンが続くと集会を禁止しているため農家への研修などが開催しづら
いことが予想されます。



インドネシア [COVID-19] 新型コロナウイルス感染症の状況

2020/7/22時点



▲ 感染者が出た村人を診断する医療従事者

スンバ島の感染状況

感染者が出ています。感染者を出した村は石を投げられるなどの被害も発生しています。他の島でないとPCR検査が出来ないため、実際の感染状況は把握できないのが現状です。電波も電気もない地域もあるため、新型コロナが流行していることを知らない島民もいます。

インドネシア全体の状況

- 2020/3/20 日本人を含めた入国規制措置の実施
実質的な入国は不可に。2020年7月も継続中。
- 2020/4/6 大規模な社会制限(ロックダウン)の実施
食料品を除いた商店の営業停止、学校の休業、
宗教施設での集会禁止、移動制限、マスク着用などが実施中。ロックダウンは2020年7月も継続中で解除の兆しは見えません。

スンバ島の状況

2020年3月上旬にスンバ島への出張および会員3名の渡航を予定していましたが現地の要請および日本での感染状況を顧みて渡航を中止しました。
バリ島からスンバ島に到着する飛行機は週一便に大幅減、来訪者は2週間の隔離、集会の禁止、学校の休校が続いてます。市場ではマスクの着用が求められています。

団体・個人からの ご協力 ご支援・ご参加の方法



(順不同/敬称略)

ご寄付のご協力

ニ幸建設（株）
三菱商事（株）
ときわ幼稚園
新所沢こひつじ幼稚園
カトリック吉祥寺教会
日本基督教団奥沢教会

この他に約280の
団体・個人の方から
ご寄付を賜りました。

リサイクル寄付のご協力

NECグループ
大和証券グループ
キッコーマン（株）
平塚カトリック教会
東京ボランティア・市民活動センター
三井ボランティアネットワーク事業団

この他に約120の
団体・個人方から
ご寄付を賜りました。

ボランティアのご協力

三菱商事（株）
トヨタ自動車（株）
ちよだボランティアクラブ
（株）三井住友フィナンシャルグループ
千代田区立障害者福祉センターえみふる
認定NPO法人サービスグラント
「プロボノチーム」

この他に約100の
団体・個人の方が
ご参加されました。

助成金のご支援

外務省日本NGO連携無償資金協力
日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」
（公社）国土緑化推進機構「緑の募金」
（公財）生協総合研究所

皆様のご支援・ご協力で2019年度も活動を行うことが
出来ました。誠にありがとうございます。

イベントの開催

■南インドの有機農のNOW！（2019/5/25）

インドの環境活動家を追った短編映画を通じてインド農村が抱えた様々な問題を紹介＆インド料理体験会を実施。

■体験試食ボランティア会（2019/5/25）

出展イベントで実施予定のプログラムを本番前に練習。調理予定の品や民族衣装の体験や楽器ゴンの演奏などを実施。



イベント出展



■メーデー中央大会

開催：2019/4/27

主催：日本労働組合総連合会

■グローバルフェスタ

開催：2019/9/28～29（土日）

共催：外務省・JICA・JANIC

■満点市場

開催：2020/2/8（土）

主催：東京ボランティア市民活動センター

活動紹介や文化体験、クルプックとウンピン（インドネシアの揚げ煎餅）や雑貨販売などを行いました！

モノを寄付すると活動資金に



➡ LIFE事務局までお送り下さい

➡ きしゃぽん募金（0120-29-7000）or
モノキフ（0798-74-0387）にお問合せ下さい

■ 会員総会について

毎年5月下旬土曜日に会員総会を実施しています。総会では活動報告、会計報告、来年度の計画案、予算案などを話し合い、LIFEの活動の最終決定をする場です。LIFE正会員のみ参加することができます。

■ 会員制度について

NPO法人は正会員が法律上の社員で法人を運営する主役です。LIFEを支える会員にアナタもなりませんか？会費は法人運営のための管理費として活用されます。

会費／種類

●正会員（個人）

年額1口：12,000円

特典：

- ✓ ツアー参加
- ✓ イベント割引 など

●正会員（団体）

年額1口：20,000円

●賛助会員

年額1口：6,000円

貸借対照表

2020年 3月 31日現在

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	8,773,298	
貯蔵品	596,324	
流動資産合計		9,369,622
2. 固定資産		
敷金	780,790	
固定資産合計		780,790
資産合計		10,150,412
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	464,382	
預り金	30,370	
流動負債合計		494,752
負債合計		494,752
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	13,644,440	
当期正味財産増減額	△ 3,988,780	
正味財産合計		9,655,660
負債及び正味財産合計		10,150,412

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

科目	国際協力事業 (インド)	国際協力事業 (インドネシア)	海外交流 事業	国際理解 促進事業	事業 部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費					0	812,000	812,000
2. 受取寄付金	779,442	1,855,759			2,635,201	2,146,083	4,781,284
3. 受取助成金	19,283,870	1,854,171			21,138,041	2,013,770	23,151,811
4. 事業収益	932,160		19,744	255,200	1,207,104		1,207,104
5. その他収益					0	62	62
経常収益計	20,995,472	3,709,930	19,744	255,200	24,980,348	4,971,915	29,952,261
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当	3,112,750	1,509,754	10,000	379,710	5,012,214	1,819,106	6,831,320
通勤交通費					0	183,930	183,930
福利厚生費					0	20,000	20,000
法定福利費					0	15,066	15,066
人件費計	3,112,750	1,509,754	10,000	379,710	5,012,214	2,038,102	7,050,316
(2) その他経費							
海外プロジェクト費	19,134,610	2,135,292			21,269,902		21,269,902
旅費交通費	971,462	550,122	229,518	10,324	1,761,426	4,760	1,766,186
研修費	208,644				208,644		208,644
払込手数料	36,728	14,540		1,856	53,124	364,878	418,002
通信運搬費	23,178	24,509	2,420	47,447	97,554	183,871	281,425
消耗品費	189,720			5,101	194,821	332,446	527,267
書籍資料費	8,190				8,190		8,190
車両賃借料	220,320				220,320		220,320
家賃費用	403,920				403,920	718,495	1,122,415
光熱費	36,720				36,720	83,083	119,803
広告宣伝費	145,350		14,200		159,550	283,116	442,666
交際費		10,359			10,359		10,359
仕入費				145,125	145,125		145,125
会場出展費			1,000	57,096	58,096		58,096
国内活動保険料				3,420	3,420		3,420
会議費					0	9,700	9,700
諸会費					0	64,400	64,400
支払報酬					0	214,805	214,805
その他経費計	21,378,842	2,734,822	247,138	270,369	24,631,171	2,259,554	26,890,725
経常費用計	24,491,592	4,244,576	257,138	650,079	29,643,385	4,297,656	33,941,041
当期経常増減額	▲ 3,496,120	▲ 534,646	▲ 237,394	▲ 394,779	▲ 4,663,039	674,259	▲ 3,988,780

3. 使途等が制約された寄付金等
使途等が制約された寄付金等の増減は以下の通りです。
当法人の正味財産は 9,655,660 円ですが下記の通り使途が指定されています。
使途が制約されていない正味財産は 1,845,679 円、使途が制約されている正味財産は 7,809,981 円です。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
外務省：日本NGO連携無償資金協力	10,044,233	20,270,640	22,504,892	7,809,981	
国土緑化推進機構：緑の募金		494,800	494,800	0	
日本労働組合総連合会：連合・愛のカンパ		500,000	500,000	0	
(一財)ゆうちよ財団：NGO海外援助活動助成		859,371	859,371	0	
(公財)生協総合研究所：アジア生協協力基金		997,000	997,000	0	
千代田区社会福祉協議会：広報活動支援助成金		30,000	30,000	0	
READYFOR(株)：スンバ島モリンガ栄養支援		1,041,000	1,041,000	0	
インド指定寄付		399,202	399,202	0	
インド教育ローン指定寄付		500,000	500,000	0	
インドネシア指定寄付		1,533,766	1,533,766	0	
合計	10,044,233	26,625,779	28,860,031	7,809,981	

(単位：円)



▲ 2020年度会員総会の様子
初リモート開催を実施し、2019年度 会計&活動報告を行いました。

活動計算書

2019年 4月 1日 ~ 2020年 3月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員(個人)受取会費	484,000	
正会員(団体)受取会費	40,000	
賛助会員受取会費	288,000	812,000
2. 受取寄付金・助成金		
受取寄付金	4,781,284	
受取助成金	23,151,811	27,933,095
3. 事業収益		
国際協力事業収益	932,160	
海外交流事業収益	19,744	
国際理解促進事業収益	255,200	1,207,104
4. その他収益		
受取利息	62	62
経常収益計		29,952,261
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	5,012,214	
人件費計	5,012,214	
(2)その他経費		
海外プロジェクト費	21,269,902	
旅費交通費	1,761,426	
研修費	208,644	
払込手数料	53,124	
通信運搬費	97,554	
消耗品費	194,821	
書籍資料費	8,190	
車両賃借料	220,320	
家賃費用	403,920	
光熱費	36,720	
広告宣伝費	159,550	
交際費	10,359	
仕入費	145,125	
会場出展費	58,096	
国内活動保険料	3,420	
その他経費計	24,631,171	
事業費計		29,643,385
2. 管理費		
(1)人件費		
給料手当	1,819,106	
通勤交通費	183,930	
福利厚生費	20,000	
法定福利費	15,066	
人件費計	2,038,102	
(2)その他経費		
手数料	364,878	
広報宣伝費	283,116	
通信費	183,871	
光熱費	83,083	
家賃費用	718,495	
消耗品費	332,446	
会議費	9,700	
旅費交通費	4,760	
諸会費	64,400	
支払報酬	214,805	
その他経費計	2,259,554	
管理費計		4,297,656
経常費用計		33,941,041
当期正味財産増減額		△ 3,988,780
前期繰越正味財産額		13,644,440
次期繰越正味財産額		9,655,660

未使用の切手

451,609円

使用済み切手

50kg 45,000円

レア・海外切手

1,230g 2,510円

郵便ハガキ

9,313枚 517,680円

海外のコイン紙幣・金券など

67,220円

きしゃぼん募金

713点76,316円

2019年度
キャンペーン募金の集計結果

【寄付サイト Readyfor】 4/19~5月末

インドネシアの子どもたちに、
モリンガで栄養改善を

64組がご寄付 **1,041,000円**

「夏のひまわり募金」 7~9月末

インドネシア モリンガで栄養改善

70組がご寄付 **309,127円**

「クリスマス年末募金」 12月~3月末

インドとインドネシアの村の人に、
愛の手を!

152組がご寄付 **1,473,546円**

皆様のご支援で活動が出来たこと、
心より御礼を申し上げます。

地球と共に、 生きる未来をつくる。



【目標】ビジョン

インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し自立して暮らせる社会を目指します。

【使命】ミッション

私たちとビジョンを共有する現地NGOと協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

英語名 LIFE
Live with Friends on the Earth
所在地 〒102-0071
東京都千代田区富士見2-2-2
東京三和ビル503
最寄駅 飯田橋駅（徒歩5分）
TEL 03-3261-7855
FAX 03-3261-9053
E-mail life@earth-ngo.jp
URL http://earth-ngo.jp/
銀行口座 ゆうちょ銀行 019支店（ゼロイチキョウ）
当座預金 0400590
[00180-9-400590]
口座名 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

特定非営利活動法人

地球の友と歩む会



@lifetokyo



@life_insta_official



@life.ngo



Accountability
Self-Check 2012

これは、JANICの「アカウント
ビリティ・セルフチェック2012」
マークです。
JANICのアカウントビリティ基
準の4文や(組織運営・事業実
施・会計・情報公開)について
問う団体が適切に自己審査し
たことを示しています。